

特集「私たちを取り巻く情報の信頼性とライフタイムを意識した安全な社会基盤の確立に向けて」の編集にあたって

角尾 幸保^{1,a)}

情報セキュリティの研究は、攻撃者から情報そのものを秘匿することから始まった。そして、情報の安全にかかわる様々な研究領域が広がりを見せている。多くの研究成果が実社会へ適用され、技術的・システムの対応として、安心・安全な社会の実現に貢献している。過去を考えれば、適切に設計された情報セキュリティシステムへの攻撃が、より困難になったと考えられる。しかし近年では、被害者の心理学的な弱点を利用するソーシャルエンジニアリングに基づく攻撃などが増加している。インターネットを介して攻撃者の提供する情報を信頼したために、被害者の利益にならない行動を被害者自身がとってしまうということが、日常生活の現実として起きている。このような「システム」よりも攻撃が容易な「人」への攻撃は今後も増加すると推測されるため、人間の振舞いや意思決定プロセスにおける様々なヒューマンファクタを考慮した研究、情報セキュリティと人間心理を融合した研究、などの需要がますます高まると思われる。

以上の思いから、今回、「私たちを取り巻く情報の信頼性とライフタイムを意識した安全な社会基盤の確立に向けて」特集号の企画を行い、①知能やセキュリティ技術、②プライバシーとトラスト、③その保護技術に対する安心と安全、④コンピュータによる協調支援、⑤セキュリティの経済学など、広範囲なヒューマンファクタを考慮したセキュリティ・プライバシーに関する研究論文の募集を行った。本特集号に対して19件の論文投稿があり、最終的に12件を採録とした。上述のように、本特集号では、5つの典型テーマ例を掲げ、安心・安全な社会の実現に貢献・寄与する研究論文の掲載を目的とした。結果として、①に分類される論文が3件、②が2件、③が3件、④が2件、⑤が2件採録されており、当初の期待どおりの編集結果が得られたと考えている。本特集号が、社会の安心と安全の実現に貢献・寄与できることを願っている。

最後に、関係者に感謝をいたしたい。限られた時間の中

で、多様な論文の査読を行い、予定どおり出版にこぎつけることができたのは、査読者や編集委員、学会関係者の皆様方の多大なるご尽力の賜物であり、編集委員長としてこの場を借りて厚く御礼を申し上げたい。特に、猪俣敦夫幹事（東京電機大学）、廣田啓一幹事（日本電信電話）には、とりまとめの中心となって運営にご献身いただいた。お二人の配慮と情熱、細心の注意により本特集は完成したと考える。心からの感謝を送りたい。

「私たちを取り巻く情報の信頼性とライフタイムを意識した安全な社会基盤の確立に向けて」特集号編集委員会

- 編集長
角尾幸保（NEC）
- 幹事
猪俣敦夫（東京電機大学）
廣田啓一（日本電信電話）
- 編集委員
島岡政基（セコム）、稲葉 緑（情報セキュリティ大学院大学）、上原哲太郎（立命館大学）、大坐昴智（電気通信大学）、金岡 晃（東邦大学）、小松文子（長崎県立大学）、五味秀仁（ヤフー）、坂本一仁（セコム）、白石善明（神戸大学）、高田哲司（電気通信大学）、田中健次（電気通信大学）、田中俊昭（KDDI 研究所）、寺田真敏（日立製作所）、西垣正勝（静岡大学）、松浦幹太（東京大学）、村山優子（津田塾大学）、毛利公一（立命館大学）、八槇博史（東京電機大学）、山口高康（NTT ドコモ）、吉浦 裕（電気通信大学）

¹ 日本電気株式会社セキュリティ研究所
NEC Corporation Security Research Laboratories

a) tsunoo@BL.jp.nec.com